

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	人間と芸術	担当者名	前田一明・木戸永二
授業の概要	芸術に関する視聴覚教材などを通して、人間と芸術のかかわりについての理解を深める		
科目の到達目標	①様々な芸術分野の人物や作品を通して、芸術に対する視野を広げることができる。 ②芸術作品に触れることを通して地震の完成や芸術的嗜好を見つめ直すことができる。 ③芸術に対する自分なりの考え方をまとめ言語化することができる。		
授業時間外学修 (予習・復習)	無し		
フィードバックの 方法			
単位認定の要件			
評価の方法・割合 (%)	以下の割合で総合的に評価する。 毎授業ごとに小課題:60%(次の回の授業で簡単なフィードバックを行う) 到達目標①②に関する評価を行う。 ・授業に集中し教員の説明等を聞いているか ・授業内容に関係する問いかけに意思表示ができているか ・自身の経験や生活と照らし合わせて考えているか ・一定以上の分量があり、キーワードを正確に活用して作文しているか レポート課題40% 到達目標①②③に関する評価を行う ・自身の経験や生活と照らし合わせて、独自の考えを持ち・述べることができるか ・講義で取り扱った内容について正しく理解しているか ・キーワードを正確に活用し、文章を作成しているか ・一定以上の分量があり、文章作成の決まりに則り説明できているか		
履修上の注意事項	・授業内でインターネット環境を利用し、感想や意見を記述してもらうため、PCやタブレット、携帯を持参すること。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/6		ガイダンス:(美術・音楽合同) ①授業の概要と目的 ②授業の到達目標 ③授業計画と予習・復習等 ④成績評価の方法 ⑤オフィスアワーについて ⑥視覚教材による学習(芸術・表現について考える) 予習:生活の中で気になった美術作品やデザイン、音楽等を探すこと(30分) 復習:授業内で鑑賞した作品・作家などに関して調べること(30分)	演習課題提出
2	4/13		美術について(1) ①前回内容のフィードバック ②視覚教材による学習(美術の大きな流れ①) 予習:生活の中で気になった美術作品やデザインを探すこと(30分) 復習:授業内で鑑賞した作品・作家などに関して調べること(30分)	演習課題提出
3	4/20		美術について(2) ①前回内容のフィードバック ②視覚教材による学習(美術の大きな流れ②) 予習:生活の中で気になった美術作品やデザインを探すこと(30分) 復習:授業内で鑑賞した作品・作家などに関して調べること(30分)	演習課題提出
4	4/27		美術について(3) ①前回内容のフィードバック ②視覚教材による学習(芸術家の生涯) 予習:生活の中で気になった美術作品やデザインを探すこと(30分) 復習:授業内で鑑賞した作品・作家などに関して調べること(30分)	演習課題提出

5	5/11	美術について(4) ①前回内容のフィードバック ②視覚教材による学習(拡張する芸術、多様な表現手段) 予習:生活の中で気になった美術作品やデザインを探すこと(30分) 復習:授業内で鑑賞した作品・作家などに関して調べること(30分)	演習課題提出
6	5/18	美術について(5) ①前回内容のフィードバック ②視覚教材による学習(芸術と自然) 予習:生活の中で気になった美術作品やデザインを探すこと(30分) 復習:授業内で鑑賞した作品・作家などに関して調べること(30分)	演習課題提出
7	5/25	美術について(6) ①前回内容のフィードバック ②視覚教材による学習(青森の芸術家、青森の美術館) 予習:生活の中で気になった美術作品やデザインを探すこと(30分) 復習:授業内で鑑賞した作品・作家などに関して調べること(30分)	演習課題提出
8	6/1	音楽について(1) ①オフィスアワーについて ②人間と芸術 音楽分野導入 ③視聴覚教材による学習(クラシック音楽) 予習:クラシック音楽に興味を持ち、気になる曲を調べる(30分) 復習:授業内で鑑賞した音楽・作曲家・演奏家などについて調べる(30分)	演習課題提出
9	6/8	音楽について(2) ①前回内容のフィードバック ②視聴覚教材による学習(ジャズ) 予習:ジャズに興味を持ち、気になる曲を調べる(30分) 復習:授業内で鑑賞した音楽・作曲家・演奏家などについて調べる(30分)	演習課題提出
10	6/15	音楽について(3) ①前回内容のフィードバック ②視聴覚教材による学習(ポピュラー音楽) 予習:ポピュラー音楽に興味を持ち、気になる曲を調べる(30分) 復習:授業内で鑑賞した音楽・作曲家・演奏家などについて調べる(30分)	演習課題提出
11	6/22	音楽について(4) ①前回内容のフィードバック ②視聴覚教材による学習(民族音楽) 予習:民族音楽に興味を持ち、気になる曲を調べる(30分) 復習:授業内で鑑賞した音楽や背景について調べる(30分)	演習課題提出
12	6/29	音楽について(5) ①前回内容のフィードバック ②視聴覚教材による学習(日本の音、音楽) 予習:日本の音や音楽に興味を持ち、気になる曲を調べる(30分) 復習:授業内で鑑賞した音や音楽、背景について調べる(30分)	演習課題提出
13	7/6	音楽について(6) ①前回内容のフィードバック ②音楽的視点から見た「芸術」とは ③視聴覚教材による学習(音楽以外の芸術) 予習:本講義を通して聴いた様々な音楽を改めて聴く(30分) 復習:自分なりに音楽的視点から芸術とは何かを考える(30分)	演習課題提出
14	7/13	芸術について再考する ①前回内容のフィードバック ②視聴覚教材による学習(美術・音楽) 予習:様々なジャンルの芸術表現に興味を持ち生活の中に土地入れてみる(30分) 復習:芸術や表現について、自分の考えをまとめること(60分)	演習課題提出
15	7/20	まとめ ①レポート作成に関する説明 ②レポート作成 予習及び復習:これまで授業で紹介した芸術作品・芸術家等を通して、芸術とは何かを自分なりに考察すること(60分)	演習課題提出・発表
期末試験			

使用テキスト	授業内で連絡
参考文献 参考URL	授業内で連絡
備考	

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	情報資源の流通と管理	担当者名	本間 維
授業の概要	<p>図書館は、利用者が資料や情報にアクセスできるよう、様々なサービスを提供している。従来は印刷媒体が多かった図書館情報資源であるが、近年はインターネット利用の浸透や電子出版の普及、資料のデジタル化の発展などを受けて、より多様な媒体を資料として捉える必要性が生じている。</p> <p>図書館を取り巻く情報環境の変化や時代的要請を考慮しながら、伝統的な印刷資料と非印刷資料、電子資料とネットワーク情報資源、地域・行政資料、情報資源の生成(出版)と流通、図書館業務と情報資源に関する知識、コレクション形成に関する理論と方法等を講義して司書資格の取得に備えることを目指す。</p>		
科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館で扱われる情報資源の種類と特質を文章で説明できる。 2. どのような情報資源がどの経路で流通しているかを文章で説明できる。 3. 情報流通における課題を把握し、どのような対策が実践されているのかを文章で説明できる。 4. 資料の一般的な選択・収集プロセスと留意点を文章で説明できる。 5. コレクション評価の代表的な手法を列挙することができる。 6. コレクション評価の代表的な手法を実践することができる。 		
授業時間外学修 (予習・復習)	<p>復習・課題</p> <p>第1回～第4回:第5回の確認テストに向けて、図書館情報資源の種類と特徴をノートにまとめる(240分)</p> <p>第5回 確認テストで正しく回答できなかった問題について、該当する授業資料を見直す(60分)</p> <p>第6回～第8回:第9回の確認テストに向けて、情報資源の流通パターンと、流通における課題をノートにまとめる(180分)</p> <p>第9回:確認テストで正しく回答できなかった問題について、該当する授業資料を見直す(60分)</p> <p>第10回～第12回:第13回の確認テストに向けて、資料の選択、収集、保管のプロセスと留意点をノートにまとめる(300分)</p> <p>第14回 第15回までに、本学附属図書館のコレクションの評価を行い、スライドにまとめる(180分)</p> <p>第15回 他の受講者が発表した内容をもとに、コレクション評価の観点と注意点をノートにまとめる(120分)</p>		
フィードバックの方法			
単位認定の要件			
評価の方法・割合 (%)	<p>期末試験(45%) 学期末に筆記試験を実施する(到達目標1～6) 穴埋め問題、記述問題により、到達目標に挙げた項目を正しく説明・記述できているかを評価する。 45点満点のうち、30点以上が基準を最低限満たした者として評価し、36点以上を達成水準とする。</p> <p>小テスト1(15%) 第5回に実施(到達目標1) 穴埋め問題、記述問題により、到達目標に挙げた項目を正しく説明・記述できているかを評価する。 15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たした者として評価し、12点以上を達成水準とする。</p> <p>小テスト2(15%) 第9回に実施(到達目標2, 3) 穴埋め問題、記述問題により、到達目標に挙げた項目を正しく説明・記述できているかを評価する。 15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たした者として評価し、12点以上を達成水準とする。</p> <p>小テスト3(15%) 第13回に実施(到達目標4, 5) 穴埋め問題、記述問題により、到達目標に挙げた項目を正しく説明・記述できているかを評価する。 15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たした者として評価し、12点以上を達成水準とする。</p> <p>コレクション評価(10%) 第14回と第15回に実施(到達目標6) 2つ以上の観点で本学のコレクションを評価し、改善すべきと思われる点を挙げる。 コレクション評価の指標が正しく用いられていること、改善すべき点が評価結果と結びついていることを評価する。</p>		
履修上の注意事項	<p>成績評価が60%に満たない場合は再試験の対象とします。</p> <p>樹氷資料はteamsで共有します。</p> <p>第14回と第15回の授業では各自でパソコンまたはタブレットを持参してください。</p> <p>確認テストの際は、解凍後に各自で答案用紙を写真に撮ってもらうので、スマートフォンを持参してください。</p>		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/6		図書館情報資源とは何か	
2	4/13		図書館情報資源の種類と特質(1) 図書、逐次刊行物、二次資料	
3	4/20		図書館情報資源の種類と特質(2) 電子資料、ネットワーク情報資源	
4	4/27		図書館情報資源の種類と特質(3) 地域資料、行政資料、灰色文献	
5	5/11		確認テスト1(範囲:第1回~第4回)とその解説	
6	5/18		図書館情報資源の流通(1) 商業出版と取次	
7	5/25		図書館情報資源の流通(2) 学術情報流通(学術雑誌、研究発表、査読)	
8	6/1		図書館情報資源の流通(3) 電子出版、OA(電子書籍、電子ジャーナル、機関リポジトリ)	
9	6/8		確認テスト2(範囲:第6回~第8回)とその解説	
10	6/15		コレクション構築(1)コレクション構築とは何か(意義、一般的なプロセスなど)	
11	6/22		コレクション構築(2)資料の選択と収集(選書の方法、選書ツール、資料収集方針、収集手段)	
12	6/29		コレクション構築(3)コレクションの評価	
13	7/6		確認テスト3(範囲:第10回~第12回)とその解説	
14	7/13		実践;本学附属図書館のコレクションを評価する。	
15	7/20		実践;本学附属図書館のコレクションの評価結果を受講者間で共有する	
期末試験				
使用テキスト			特になし	
参考文献 参考URL				
備考				

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	地球と環境	担当者名	中村 智行
授業の概要	地球が誕生してから、地球上では様々な「自然現象」が生じているが、その環境に人間活動も社会もなければ、「自然現象」は単なる現象であり「災害」が起こることはない。本講義では、「自然現象」の基礎的な仕組みを学ぶとともに、それにより生ずる「災害」と防災対策について基礎的な知識を習得し、「災害」から「自分の身は自分で守る」ことを目的とします。		
科目の到達目標	①地球上で生じる主な自然現象の仕組みを説明することができる(中間総括) ②防災に関して提供される情報を正しく解釈することができる(中間総括) ③自分の地域で発生する災害について列挙することができる(期末試験) ④ハザードマップ等から想定される災害を正しく予測することができる(期末試験) ⑤災害時に自分の命を守る避難行動を行うことができる(期末試験)		
授業時間外学修(予習・復習)	なし		
フィードバックの方法			
単位認定の要件			
評価の方法・割合(%)	学期末試験(40%) 学期末試験は40点満点の選択・記述方式とする。24点以上が基準を満たしたものと評価し、28点以上を達成水準とする(到達目標③④⑤) 中間総括(30%) 中間総括は30点満点の選択・記述方式とする。18点以上が基準を満たしたものと評価し、21点以上を達成水準とする(到達目標①②) コメントシート・受講態度(30%) 毎回講義の最後にコメントシート(2点満点×15回)を課す。内容は各講義のフィードバックについて自身の考えを記載していれば2点として評価する。合計で20点以上が基準を満たしたものと評価し、24点以上を達成水準とする。(到達目標①②)		
履修上の注意事項			

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/6		自然現象と災害 ①講義概要 ②成績評価 ③自然現象と災害 ④グループワーク ⑤コメントシート (予習)東日本大震災の時の記憶を書きだしておくこと(90分) (復習)講義を元にノートをまとめること(90分)	
2	4/13		地球で生じる自然現象①地震 ①地震のメカニズム ②緊急地震速報 ③コメントシート (予習)緊急地震速報について調べておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
3	4/20		地球で生じる自然現象②津波 ①津波のメカニズム ②津波の特徴 ③コメントシート (予習)津波と高潮・波浪の違いを調べておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
4	4/27		地球で生じる自然現象③降水・雲 ①降水現象 ②雲の分類 ③コメントシート (予習)雲について調べておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
5	5/11		地球で生じる自然現象④天気・台風 ①天気 ②台風 ③コメントシート (予習)台風と熱帯低気圧の違いを調べておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
6	5/18		地球で生じる自然現象⑤竜巻・火山 ①竜巻 ②火山 ③中間テストについて ④コメントシート (予習)台風と熱帯低気圧の違いを調べておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	

7	5/25	中間総括 ①中間総括 ②理解度が低い分野の解説 ③コメントシート (予習)第6回までの授業内容を紗整理しておくこと(90分) (復習)第6回までの授業全体についての理解を体系的に整理しておくこと(90分)	
8	6/1	地球環境と気候変動 ①中間総括の共有 ②地球環境 ③気候変動 ④コメントシート (予習)気候変動について調べておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
9	6/8	青森県の災害①(地震) ①十勝沖地震 ②日本海中部地震 ③三陸はるか沖地震 ④東北太平洋沖地震 ⑤青森県の活断層 ⑥コメントシート (予習)地震・津波災害の記憶や経験があれば書き出しておくこと(90分)	
10	6/15	青森県の災害②(津波) ①地震・津波から身を守るために ②津波警報等 ③コメントシート (予習)地震や津波から身を守るために方法について考えておくこと(90分) (復習)講義を元にノートをまとめること(90分)	
11	6/22	青森県の災害③(土砂・気象災害) ①青森県の土砂災害 ②青森県の気象災害 ③コメントシート (予習)土砂災害について調べ記憶や経験があれば書きだしておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
12	6/29	青森県の災害④(火山) ①青森県の活火山 ②火山災害 ③コメントシート (予習)土砂災害について調べ記憶や経験があれば書きだしておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
13	7/6	防災情報とハザードマップ ①特別警報等 ②ハザードマップ ③コメントシート (予習)自分が住んでいる地域のハザードマップを調べておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
14	7/13	自助・共助・公助 ①自助・共助・公助 ②防災カードゲーム(クロスロード) ③コメントシート (予習)自助・共助・公助について調べておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
15	7/20	避難行動 ①災害発生時の避難行動について ②コメントシート (予習)災害が起きたときにとる行動について考えておくこと(90分) (復習)講義を元にノートにまとめること(90分)	
期末試験			

使用テキスト	なし(講義のスライドデータをtemsで共有できるようにします)
参考文献 参考URL	なし
備考	

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	科学と技術	担当者名	浅田 豊
授業の概要	科学技術並びに創造的営為を文化的事象の中に位置づけ、自然及び人文・社会科学の諸理論、歴史、政策の各側面について考察する。また、人々の生活を取り巻く近代的な自然観や人間観、地域社会観の歴史的展開過程をふまえながら、その意義と問題点をみて、現代及びこれからの自然・人間・地域社会観のあるべき姿について、具体的な諸例をもとに、理論的実践的に検討する。		
科目の到達目標	1. 履修学生は、科学技術並びに創造の概念を十分に説明することができる。 2. 履修学生は議論を深め、科学技術や創造的営為が学問として、そして何よりも身近なものとして我々の社会生活や地域づくりへどのように役立つのかという点に関し具体的に検討することができる。 3. 履修学生は相互作用を通じ、専攻研究等の題材をもとに、諸科学における発見や発明などの観点から考察することができる。 以上を目標とする。目標達成の手段として、アクティブラーニングを取り入れる。		
授業時間外学修 (予習・復習)	予習: 資料の中に論点を明確化しますので、資料を事前に熟読した上で、論点について、自分の見解を明確にするようにしましょう。(45分) 復習: 授業のポイントについて自分なりに考察を深め、参考資料にあたり、さらに知識を補強しましょう。(45分)		
フィードバックの方法	アクティブラーニングの業にフィードバックを行います。		
単位認定の要件			
評価の方法・割合 (%)	試験(80%)、授業への参加度(20%)により評価します。		
履修上の注意事項	参加型で楽しい授業を心がけます。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/6		導入: 科学すると科学技術の社会的意義	
2	4/13		科学的根拠の重要性	
3	4/20		創造的営為と社会との関係性	
4	4/27		これからの自然・人間・地域社会観(1) 科学技術と自然観	
5	5/11		これからの自然・人間・地域社会観(2) 科学と人間	
6	5/18		これからの自然・人間・地域社会観(3) 科学技術と地域社会	
7	5/25		これからの自然・人間・地域社会観(4) 自然と創造	
8	6/1		これからの自然・人間・地域社会観(5) 地域社会と創造	
9	6/8		実践的事例(1) 科学や技術が人々の健康面での生活にどのように関係しているか: 社会学から見た「コミュニティの発展と住民の生活意識」の分析視点	
10	6/15		実践的事例(2) 科学や技術が人々の健康面での生活にどのように関係しているか: ヘルスリテラシーとヘルスプロモーションに関する実践的展開	
11	6/22		グループ協議(1) 合理的認識からテーマをつかむ	
12	6/29		グループ協議(2) 多角的分析からテーマを深める	
13	7/6		全体発表と議論(1) 成果の共有とフィードバック	
14	7/13		全体発表と議論(2) 実践応用の視点からの検討度フィードバック	
15	7/20		総括: 科学技術と創造の展望	
期末試験				

使用テキスト	独自に作成・編集した資料を配付します。
参考文献 参考URL	授業中に紹介します。
備考	

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	1単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	日本の文化(華道)	担当者名	船橋 信苑
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「花を通して、自然に目を向け、四季を感じる心」を育てる。 ・植物の「生」を通して、「いける＝いかす」のは自分であることを自覚する。 ・「いけばな」の成り立ちを知る ・「小原流いけばな」の基本を実習を通して学ぶ ・挨拶が常にきちんに行える 		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・四季の花々に関心を持ち、花の名前を知る ・華道の成り立ちを覚え、説明できる ・花の道具を大切に扱い、花に対しても基本的な接し方ができる ・「小原流」の基本に添ったいけ方ができる ・「いけばな」を「いける一飾る一かたづける」の一貫の流れとして実行することができる ・小原流基本花形「たてるかたち」「かたむけるかたち」を花に合わせて使い分けられる 		
授業時間外学修(予習・復習)	予習:時間外で見つけた花について調べてくること(30分) 復習:各回の作品が完成するまでに言われた指摘事項を反芻すること(30分) 小原留学生いけばな協議会(日程未定)へ参加。学園祭への参加・作品展示(原則全員参加)		
フィードバックの方法	提出されたノートは、コメントをつけて、全ての講義終了後返却する。		
単位認定の要件	毎回のコメントシートについては、講義を聞いて何が問題なのかを理解しているかどうか重要となる。 期末レポートについては、授業内容の理解に加え、取り上げた具体的事例が「なぜ」憲法の観点から問題となるのかをきちんと説明できていることが重要となる。		
評価の方法・割合(%)	受講態度 20% 提出ノート 40% 作品 40%		
履修上の注意事項	小原流いけばな初等科修了証の授与 華道のための道具(はさみ、花とめ、花器等(費用;約5000円)を購入 ただし、はさみ以外はお貸しすることも可能です。 受講数を上限30名としているため超えた場合は抽選となる場合があります。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/6		オリエンテーション ・華道の成り立ち、変遷を知る ・「いける」ことの意味を知る ・「小原流いけばな」を学ぶことを自覚する ・花道具の扱い方、花の扱い方を知る ・授業の流れを知る ・レポートを自分なりにまとめて提出する ・学園内の自然観察を常に心がけ、青森の四季に目を向ける。 (実際にいけてみせる)	
2	4/13		授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品のデッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する ◎花材に合った基本花形の習得 「たてるかたち」「かたむけるかたち」繰り返し実習する	
3	4/20		授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品のデッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する	
4	4/27		授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品デッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する	

5	5/11	授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品デッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する	
6	5/18	授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品デッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する	
7	5/25	授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品デッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する	
8	6/1	授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品デッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する	
9	6/8	授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品デッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する	
10	6/15	授業 1. 時間外で見つけた花を記入する(提出) 2. 小原流の基本に基づき、寸法の決め方・角度等を実習 3. 作品の仕上がりを確認してもらう 4. 自分の作品デッサン・要点・感想を書き提出する 5. 作品を互いに鑑賞する	
11	6/22	授業 ・授業における知識と実技の習得の実技の習得の確認の講義① ・学園祭の準備、生徒の希望、班作り	
12	6/29	授業 ・授業における知識と実技の習得の実技の習得の確認の講義② ・学園祭の準備、生徒の希望、班作り	
13	7/6	授業 ・花材にあった花型でいける ・学園祭の準備、生徒の希望、班作り	
14	7/13	授業 ・花材にあった花型でいける ・学園祭の準備、生徒の希望、班作り	
15	7/20	授業流 ・「小原流いけばな」を自覚していける ・学園祭の準備、生徒の希望、班作り	
期末試験			

使用テキスト	特になし
参考文献 参考URL	棟居快行、他『基本的人権の事件簿[第6版]』(有斐閣、2019年)
備考	進行状況により、授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。